

2018年10月19日

## 福岡空港民営化・空港設備拡充に関するシンジケートローンへの参加 ～設備拡充への資金供給を通じた地域経済活性化への貢献～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、2018年度のESG投資の重点取組テーマとして、地方創生・地域活性化に資する投融資を掲げ、積極的に推進しています。その一環として、福岡国際空港株式会社<sup>1</sup>が行う国内最大規模の空港コンセッション事業に対するプロジェクトファイナンスのシンジケートローンに参加することを決定しましたので、お知らせします。

福岡空港は、日本を代表する中核的な空港であり、高まる需要に対応するため、2024年度には国による滑走路増設が予定されています。今般のコンセッション<sup>2</sup>により、民間事業者の知見を活かした空港全体での一体的・機動的な経営が期待されています。

本件事業は九州地方を代表する基幹インフラである福岡空港の機能のさらなる強化・発展に資するものです。また、本件はプロジェクトファイナンスとしては国内最大級であり、国管理空港のコンセッションとしては国内初となる案件です。

当社は本投資を通じて、収益性を確保しつつ、地域経済の活性化・国内インフラ投融資市場の拡大へ貢献することを期待しています。当社は引き続き、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、収益性の確保を前提に、地方創生・地域活性化等、社会課題の解決に積極的に取り組んでいきます。

### 第一生命の2018年度 ESG投資重点取組テーマ

#### ①ESGインテグレーションの深化

投資プロセスへのESG要素の組み込み等、ESGインテグレーションを更に深化

#### ②ESGテーマ型投資の推進

##### インパクト投資

昨年度開始したインパクト投資を積極的に推進

##### 地方創生・地域活性化

地域社会の課題解決に資する投融資の推進

<sup>1</sup> 福岡国際空港株式会社は、福岡エアポートホールディングス株式会社を代表企業として、西日本鉄道株式会社、三菱商事株式会社、チャンギ・エアポート・インターナショナル及び九州電力株式会社から構成されるコンソーシアム「福岡エアポートHDグループ」が出資し、2018年7月2日に設立された会社です。国土交通省との間で2018年8月1日付にて締結した本件事業の実施契約に基づき、福岡空港の運営事業を行います。

<sup>2</sup> コンセッションとは、高速道路や空港、上下水道など、料金徴収を伴う公共施設などの所有権を公的機関に残したまま、民間事業者が運営権を公的機関から買取り、自ら運営を行うことを指します。

【本件プロジェクト概要】

事業名	福岡空港特定運営事業等
事業者	福岡国際空港株式会社
出資者	福岡エアポートホールディングス株式会社、西日本鉄道株式会社、三菱商事株式会社、チャンギ・エアポート・インターナショナル、九州電力株式会社
事業内容	福岡空港の滑走路、ターミナルビル等の一体運営
事業期間	2048年7月31日まで(約30年間)
本件事業のスケジュール	2018年8月1日 実施契約締結、運営権設定 2018年10月12日 融資関連契約調印日 2018年11月1日 ビル施設等事業開始予定日 2019年4月1日 空港運営事業開始予定日 2048年7月31日 事業終了予定日(運営権設定日から30年後)